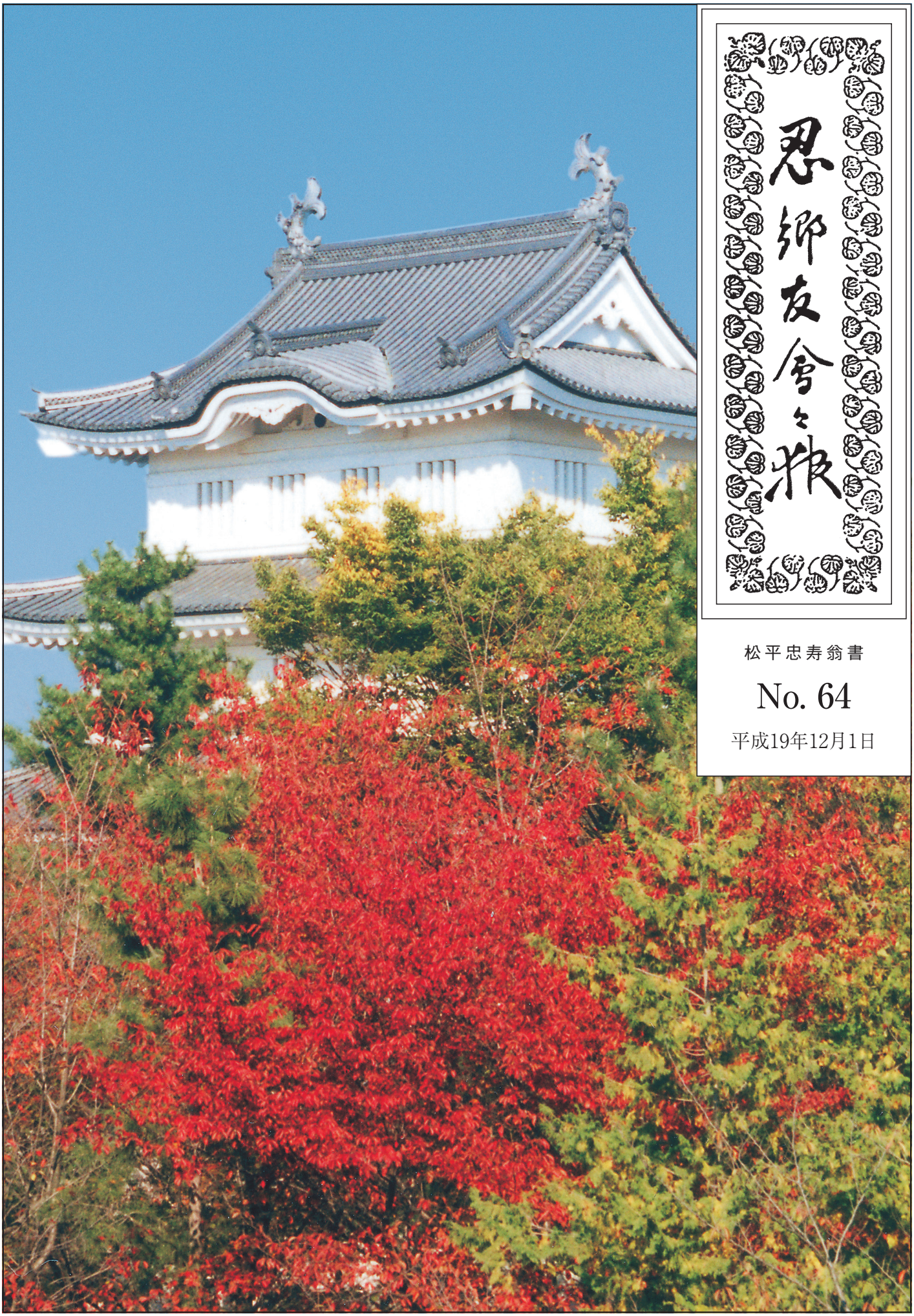
忍　郷　友　会　会　報



忍郷友会会報

松平忠寿翁書

No. 64

平成19年12月1日

忍郷友会会報　第六十四号

目次

2008年に向けた新たな歩み……松平　忠昌……1
平成19年度定時総会報告……小山　博……2
平成18年度事業報告……事務局……4
収支決算書・貸借対照表……事務局……7
忍郷友会役員名簿……事務局……8
第22回浮き城のまち行田
「少年の主張大会」……清水　龍男……9
最優秀者作品①……根岸　理絵……9
最優秀者作品②……鈴木絵璃菜……10
最優秀者作品③……大野　萌子……11
最優秀者作品④……栗原沙也佳……12
読書推進運動……江草　忠敬……13
三端懇話会に参加して……平井ユリ枝……15
第六回全国藩校サミットin鶴岡……奥田　七寿……16
進脩塾活動……田代　敬二……17
平成19年度会費納入者……事務局……19
平成19年度事業行事経過……事務局……20
わが家のルーツを探し求めて……岩崎　安裕……23
廬山白蓮……木暮　照子……24
御名刺掲載欄……事務局……25
編集後記……橋本　恭一……27

2008年に向けた新たな歩み

財団法人忍郷友会
会長　松平　忠昌

二〇〇七年三月に当会の本部事務局を行田に移転した事は、皆様の記憶に新しいところであると存じます。行田を中心とする忍郷友会としての活動を支えるために、去る六月の評議員会・理事会での承認を得まして副会長制を導入しており、渡辺栄一理事及び江草忠敬理事に就任して頂く事になりました。併せて、「東京支部」の新設を決定しており、江草副会長に兼任して頂く事になっております。

これからの当会の活動を展開する中で、東京支部の拡充は急務でありますので、会員の確保を含めて注力していく所存であります。

明治三十八年（一九〇五年）に発足致しました当会は、百年を超える活動を継続している全国でも比類のない長寿の財団法人であります。先輩諸氏を始めとする会員各位の揺ぎの無い郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられ、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援する事に置き、人材育成の為の草の根運動を展開している所であり、「少年の主張大会」、「読書推進」、「三端懇話会」及び「進脩塾」（素読教室、論語講座）の事業は引続き継続していかなければならないものと考えています。

これに加えて、我々の紹介で土屋秀宇先生による行田市の小学校を対象とする「楽しい日本語」講演会が開かれる運びになっている事も新たな行政へのアプローチとして見守って頂きたい活動であります。

一方、当会を取り巻く環境は刻々と変化を続けており、懸案としては、行政上の管理監督官庁「文部科学省」による評価が、行田に拠点を置く事によって今までに増して埼玉県に帰属すべき法人ではないかとなる事で、移管に関する指導が強化される可能性がある事です。また、会員の高齢化も今後の事業継続の上で見過ごす事の出来ない要因と見るべきでしょう。これらの懸案に取り組む為にも、各位のご理解とご支援・ご鞭撻は不可欠なものと言えますので、宜しくお願い申し上げます。

国内に目を転じて見ますと、政局は安倍政権が福田政権に交代して混迷を極めており、政策運営も困難な状況が続くと見られます。

教育に関しては色々な政策でその在り方が見直されつつあり、青少年の教育・人材の育成は普遍的な命題でありますので、教育支援を当会の事業活動の柱として継続して参る所存です。

海外では「テロ」、「北朝鮮問題」、「原油の高騰」、等々があり、外交や経済環境は予断を許さない状況にあります。また、来年は米国の大統領選挙もあり、衆議院選挙を控え日米共に分岐点を迎えるものと推測していますが、この様な変化の時こそ「教育への支援」を軸に、我々は足元を見つめて「出来ること」を着実に推進していかなければならないと考えます。

「違いの判る人間を育成する教育への支援」を念頭に行田からこれからの日本や世界を担う人材を輩出させる事を目指して事業を推進して参りますので、引き続き宜しくご指導・ご鞭撻賜りますようにお願い申し上げます。

19年度定時総会に於いて

平成19年度定時総会報告

事務局長　小山　博

平成十九年六月十日㈰午後二時より、行田市内ベルヴィ・アイトピアにおいて、総会及び懇親会が開催された。

総会に先立ち、評議会、理事会が同会場において開かれ、出席評議員四十七名（内委任状二十八名）理事十六名（内委任状七名）監事六名が出席され、両会議とも成立した。

会議は松平忠昌会長の挨拶に続き、寄付行為第十七条二項の規定に基づき、松平忠昌会長が議長席に着き、議事が進められた。議長より評議員会議事録署名人に斉藤準一、武笠勇両氏、理事会議事録署名人には、山本憲作、矢澤大和両氏を指名、各会議の署名人はこれを受託した。

審議に入り「第一号議案」平成十八年度事業報告（案）について議長の指名によって、小山博理事（事務局長）が内容を説明、松平忠昌議長よりその承認を諮ったところ、審議の結果、全員異議なく本案は承認可決された。

「第二号議案」平成十八年度収支決算書（案）について議長の指名により、小山博理事（事務局長）が内容を説明、引き続き監事を代表し大野年司氏より監査報告がなされた。議長は承認について諮ったところ、審議の結果全員異議がなく、本案は承認可決された。

上記第一号議案及び第二号議案に関する監査報告

大野年司氏が監事を代表し、平成十九年四月二十日㈮午前十一時より、株式会社有斐閣会議室で行った監査結果について次の通り報告がなされた。

税理士高澤良徳、監事大野年司、同水谷剛蔵、同板倉安男、同須郷栄司が出席し、会計監査を実施した。収支計算書、会計帳簿、預金通帳、伝票類を詳細に点検した結果、正確であることを確認した。事業報告その他をみても業務執行について適切である事を認めた。

「報告事項」

1忍郷友会事務所変更は、手続きが完了し、認可された。

1叙勲について

斉藤準一評議員

（元行田市議会議長）

平成十七年十一月　旭日双光章

武笠　勇評議員

（元埼玉県議会議員）

平成十七年十一月　旭日双光章

お二人に叙勲記念品を松平会長から贈呈され、会場から盛んな拍手が贈られた。

1ホームページ更新について

以上をもって事業報告、決算報告、報告事業を終えたため、議長は閉会を宣言し、評議会、理事会は閉会された。

休憩を挟み、午後三時四十分より「第一部総会」が矢澤大和理事の司会により開催された。総会に先だち、議長より物故者のご冥福をお祈りしたい旨発言があり、会員一同起立の上心より黙祷を捧げた。

牧野貞蔵様

（平成十九年一月十六日逝去）

小澤富男様

（平成十九年一月二十六日逝去）

会議は松平忠昌会長の挨拶に続き、寄付行為第十七条二項の規程に基づき、松平忠昌会長が議長席に着き、議事が進められた。議長の指名により、小山博理事（事務局長）から同日開催された評議員会、理事会の審議内容、承認事項、会務状況の報告がなされ、引続き各事業委員長、副委員長より各事業の報告事項など配布資料を基に一括説明された。また忍郷友会事務所が行田に移転したことに伴い、副会長

を（三名以内）選任したい事。行田支部を廃し、新たに東京支部を設けたい旨の発言が松平会長よりあった。

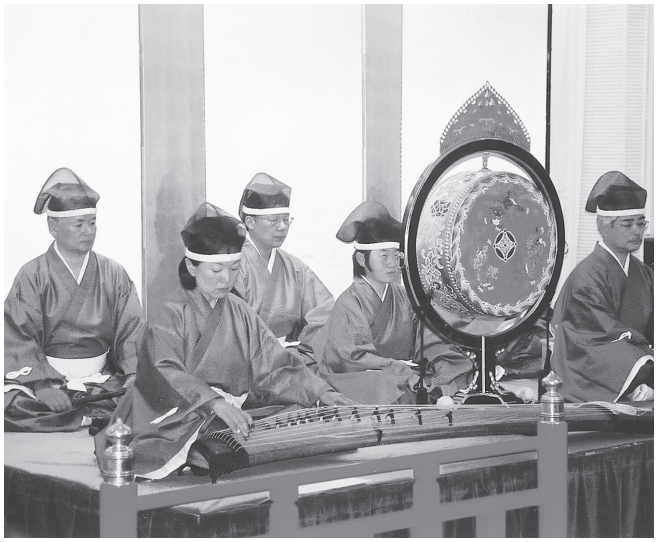
なお来賓として、行田市長工藤正司様、行田市教育長津田馨様、前内閣府事務次官江利川毅様からご挨拶を頂いた。そして松平忠昌会長が会を代表して謝辞を述べた。以上をもって議長は閉会を宣言し、総会は閉会された。

休憩を挟み、午後四時四十分より「第二部記念講演会」が開催され、渡辺栄一理事の司会及び講師紹介により、忍藩主阿部家二十二代御当主阿部正靖様を迎えて「忍藩主阿部家と行田市」と題した講演会を頂いた。なお、忍郷友会を代表して松平忠昌会長が謝辞を述べた。

会場を変え、午後六時より山本憲作理事の軽妙な司会により「第三部懇親会」が開催された。懇親会を前に、渡辺理事の肝煎りで準備された大谷喜代治と雅楽天神会の「雅楽」が演奏され、会員諸兄を幽玄の世界へ誘った。

その後、松平忠昌会長の挨拶、来賓の小島敏男（衆議院議員）、鈴木聖二（埼玉県議会議員）、岩田譲啓（行田市議会議長）、清水孝男（行田商工会議所名誉会頭）からお祝いの挨拶を頂いた。江草前事務局長の乾杯の音頭でにぎやかな懇親会に入り、阿部正靖様の特別スピーチも加わった。田代敬二理事の中締めのあと、小山事務局長の閉会の挨拶で午後八時お開きとなった。

藩主阿部家二十二代御当主　阿部正靖様



実務家の要望に応える収録法令
有斐閣判例六法 Professional
平成20年版
青山善充・菅野和夫
江頭憲治郎・小早川光郎
西田典之／編集代表
定価5250円（税込）

学習に実務に必須の判例を精選・収録
有斐閣判例六法
平成20年版
青山善充・菅野和夫
／編集代表
定価2625円（税込）

重要法令4件を新収録、ハンディ六法の決定版
ポケット六法
平成20年版
菅野和夫・江頭憲治郎
小早川光郎・西田典之
／編集代表
定価1785円（税込）

代表取締役社長　江草貞治
株式会社 有斐閣
東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312　FAX03-3264-5030
since1877

平成18年度 事業報告

1 総会

①定時総会開催

（理事・評議員会、講演会・懇親会）

日　時　平成十八年六月二五日(日)
　　午後三時四十分～午後四時三十分
　　参加者六十一名

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来　賓
　衆議院議員　小島　敏男　様
　埼玉県議会議員　鈴木　聖二　様
　行田市長　横田　昭夫　様
　行田市議会議長　関口　宣夫　様
　行田市教育委員会教育長　津田　馨　様
　行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲　様
　行田青年会議所理事長　松岡　由浩　様

松平忠昌議長より平成十七年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演　「教育は変えられる―　埼玉から全国へ」
　講　師　明星大学教授　高橋　史朗　様

懇親会

②定時総会開催

（理事会・評議員会、講演会・賀正会）

日　時　平成十九年一月二十日(土)
　　参加者四十六名

会　場　東京・日本工業倶楽部

来　賓
　行田市教育委員会生涯学習部長　原口　博昭　様
　行田市商工会議所副会頭　小川　雅以　様
　漢字文化振興会事務局長　白石　宗靖　様
　行田青年会議所理事長代理　金沢　正之　様

松平忠昌議長より平成十九年度の事業計画および予算について報告があった

記念講演　さきたま古墳群―　世界遺産登録をめざして
　講　師　行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲　様

2 役員会

①理事・監事合同準備会

日　時　平成十八年四月二十六日(水)

会　場　東京・(株)有斐閣本社会議室

審議事項
1平成十七年度事業報告書（案）について審議
2平成十七年度決算報告書（案）について審議
3平成十七年度の事業・決算に係わる監査
4平成十八年六月二十五日(日)総会開催準備会
5事務所移転について、その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②理事会、評議員会

日　時　平成十八年六月二十五日(日)
　　午後二時～三時三十分

会　場　ベルヴィアイトピア

審議事項
1平成十七年度の事業報告がなされ審議・承認
2平成十七年度の決算報告がなされ審議・承認
3平成十七年度の事業に係わる監査について報告された
4事務所移転について、その他

③臨時理事・監事合同準備会

日　時　平成十八年十一月十八日(土)

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

審議事項
1平成十九年度（平成十九年四月一日～平成二十年三月三十一日）事業計画（案）について
A「進脩塾」事業計画案について審議
B「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
C「三端懇話会」事業計画案について審議
D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
2平成十九年度（平成十九年四月一日～平成二十年三月三十一日）予算（案）について審議
3平成十九年六月の理事会・評議員会、総会の日程について
江草忠敬事務局長より、平成十九年六月九日(土)に開催したいとの提案があり審議
4その他

④理事会、評議員会

日　時　平成十九年一月二十日(土)
　　午後二時～午後三時三十分

会　場　日本工業倶楽部（東京）
審議事項
1平成十九年度（平成十九年四月一日～平成二十年三月三十一日）事業計画（案）について
A「新脩塾」事業計画案について審議、承認
B「浮城のまち行田少年の主張大会」支援・助成について審議、承認
C「三端懇話会」事業計画案について審議、承認
D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議、承認
2平成十九年度（平成十九年四月一日～平成二十年三月三十一日）予算（案）について審議、承認
3平成十九年六月の理事会・評議員会、定時総会の日程について江草忠敬事務局長より、平成十九年六月九日㈯に開催したいとの提案があり審議、承認
4その他

⑤事務所移転に関する会議
日　時　平成十八年三月十七日㈮
午後二時～六時三十分
会　場　株式会社　有斐閣
七階会議室
出席者　松平　忠昌・渡辺　栄一・坂巻　敏夫・矢澤　大和・山本　憲作・
（事務局）　遠藤　初枝
望月　利正

平成十九年四月一日より忍郷友会事務所を行田市に移転することについての準備会議を開催。文部科学省の認可問題、法務局への届出、私書箱を行田市商工センターに設けること。事務所は十万石スリーハートビルに設置する。

事務員の交代をスムーズに行うために、引継者に対して年間スケジュール及び業務内容等を提示し、事前認識をもって頂く。

3　教育奨励事業

①進脩塾活動
公開講座①
「三字経を読む」
日　時　平成十八年一月二十一日㈯
会　場　行田商工センター
講　師　荒井　桂先生
受講者　三十七名

公開講座②
第五回「母と子の漢字文化講演会」と「素読教室発表会」
日　時　平成十八年八月二十七日㈯
会　場　行田商工センター
講　師　土屋　秀宇先生
受講者　八十八名

定例講座
二月「論語」　荒井　桂先生
四月「論語」　荒井　桂先生
五月「論語」　荒井　桂先生
六月「論語」　荒井　桂先生
九月「論語」　荒井　桂先生
十月「論語」　荒井　桂先生
十一月「論語」　荒井　桂先生

＊行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語からなお、四月より、田代敬二氏及び小林康夫氏が講師として低学年児童（四歳～八歳迄）を対象とした、論語・漢詩・俳句の素読教室を毎週土曜日に開催した。

②「第二十一回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰
日　時　平成十八年七月二十三日㈯
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
本会、松平　忠昌　会長より記念品を贈呈する

③第六回「三端懇話会」
日　時　平成十八年八月二十五日㈮
会　場　東京・霞会館
講　師　片倉　邦雄先生
聴講者　行田市内の中・高校生
二十四名参加

④読書推進運動
1第五回図書館司書と読み聞かせボランティアのための講演・研修会
日　時　平成十八年六月三日㈯
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
演　題　「読む・感じる・そして続ける」
講　師　児玉ひろ美　先生
JPIC読書アドバイザー・台東区立中央図書館非常勤司書
研修会　「実際に声に出してよんでみましょう」
聴講参加者　六十名

2学校図書寄贈目録贈呈式
忍郷友会創立百周年記念事業の継続である学校図書寄贈は、読書推進実行委員会において慎重審議の結果、本年度は次の小学校四校に図書を贈呈した
日　時　平成十八年五月十六日㈫
午前十一時
会　場　行田市教育委員会
教育長室
寄贈校
行田市立西小学校校長

大嶋　伸之様
行田市立荒木小学校校長
永野　修之様
行田市立須加小学校校長
森　郁子様
行田市立南河原小学校校長
荻原　五郎様
当日は上記四校の校長先生ほか下記の方々が出席された
行田市教育委員会教育長
津田　馨様
行田市教育委員会教育総務課長
長谷川　博様
財団法人忍郷友会
会長　松平　忠昌　理事
事務局長　江草　忠敬　理事
理事　黒渕　陽夫氏
評議員　木嶋　清氏
監事　板倉　安男氏

3 読書推進実行委員会開催

日時　平成十八年三月一日㈬
午後六時
会場　アドバンテスト行田
クラブハウス
議題
(1)読み聞かせボランティア講演会開催について
第五回　六月三日㈯午前、
行田市教育文化センター「みらい」
講師　児玉ひろ美 先生
(2)学校図書館図書寄贈について

今年は、学校長の異動が多くあるとのことで、学校図書館への図書寄贈目録贈呈式開催については、新年度に入ってから会議を開催することに決定。

4 慶弔

お悔やみ申し上げます

牧野　貞蔵様
（平成十九年一月十六日逝去）
小澤　富男様
（平成十九年一月二十六日逝去）

5 会員増強対策

新入会者紹介（敬称略）

（平成十九年一月二十日）
（紹介者　加藤力也・八木原保）
・矢島　義和
さいたま市南区文蔵二－三二
－一七－一一〇三

プライミクス株式会社
（旧　特殊機化工業株式会社）
会長　古市　實
社長　古市　尚
PRIMIX
本社〒553-0001 大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話（〇六）六四五八－七五三〇
FAX（〇六）六四五八－七八五〇
東京支社〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六－四
埼玉支社〒350-0833 川越市芳野台二丁目八－四〇
工場　淀川・武庫川・埼玉・上海
http://www.primix.jp

本なら何でも揃う
宮脇書店 行田店
代表取締役　矢澤大和
Tel.048-554-6300
Fax.048-553-7500
営業時間　AM9：30～PM10：00
年中無休
http://www.tvg.ne.jp/miyawaki

平成18年度 財団法人忍郷友会収支決算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日（単位：円）

収入の部				
科目	予算	決算	差額	備考
基本財産収入	180,000	199,463	△ 19,463	株配当金
会費収入	1,600,000	1,550,000	50,000	
負担金収入	2,020,000	2,304,108	△ 284,108	
寄付金収入	50,000	37,000	13,000	
雑収入	200,000	257,653	△ 57,653	
特定預金取崩収入	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
繰越金収入	2,578,000	2,578,054	△ 54	
当期収入合計（A）	7,628,000	8,926,278	△ 1,298,278	
当期繰越金	300,000	3,523,200	△ 3,223,200	
収入合計（B）	7,928,000	12,449,478	△ 4,521,478	

支出の部				
科目	予算	決算	差額	備考
事業費	3,900,000	4,189,951	△ 289,951	
会合費	250,000	94,614	155,386	
一般管理費	580,000	1,065,916	△ 485,916	
業務委託費	750,000	675,000	75,000	
租税公課	70,000	70,000	0	
慶弔費	100,000	10,000	90,000	
繰越金支出	0	2,578,054	△ 2,578,054	
予備費	300,000		300,000	
当期支出合計（C）	5,950,000	8,683,535	△ 2,733,535	
当期収支差額（A-C）	1,678,000	242,743	1,435,257	
次期繰越金（B-C）	1,978,000	3,765,943	△ 1,787,943	

平成18年度 財団法人忍郷友会財産目録及び貸借対照表

平成18年3月31日現在（単位：円）

財産目録	
科目	金額
現金	92,916
埼玉りそな銀行行田支店	696,673
三井住友銀行千代田支店	344,767
埼玉りそな銀行行田支店	2,578,433
郵便貯金	53,154
定期預金	3,000,000
有価証券（※参照）	1,327,965
江草育英基金	2,100,000
合計	10,193,908

貸借対照表	
科目	金額
資産の部	
現金預金	3,765,943
基本財産	3,000,000
積立基金	3,427,965
資産合計	10,193,908
負債の部	
負債合計	0
正味財産の部	
正味財産	10,193,908
負債及び正味財産合計	10,193,908

（※参照）有価証券の金額は取得価格である。

内訳　東京電力株式　1,983株（内 登録株 19株）

東京ガス株式　11,254株

㈶忍郷友会役員名簿

理事

会長　松平忠昌
副会長　渡辺榮一
副会長兼東京支部長　江草忠敬
事務局長　小山博
川越支部長　加治久明
理事　新井友一
理事　安藤敬一
理事　黒渕陽夫
理事　小池英輔
理事　坂巻敏夫
理事　清水孝男
理事　清水義夫
理事　鈴木秀憲
理事　田代敬二
理事　永沼督一郎
理事　古市實
理事　堀岩夫
理事　宮川公男
理事　矢澤大和
理事　山本憲作

監事

監事　板倉安男
監事　榎本晃三
監事　大野年司
監事　須郷榮司
監事　保泉欣嗣
監事　水谷剛蔵

名誉理事

名誉理事　小島慶三
名誉理事　佐藤孝太郎

顧問

顧問　柳原承光

特別会員

特別会員　阿部正靖

評議員

評議員　青柳憲助
評議員　新井啓介
評議員　飯田芳幸
評議員　飯野暹
評議員　飯塚利男
評議員　市川芳正
評議員　井上啓子
評議員　岩崎安裕
評議員　碓井勝也
評議員　内山優
評議員　永島建雄
評議員　江草祥子
評議員　江原史郎
評議員　江利川毅
評議員　大沢誠
評議員　大谷純一
評議員　岡安徳一
評議員　小川雅以
評議員　奥貫健一
評議員　小澤誠邦
評議員　加藤力也
評議員　川辺秀夫
評議員　木島清
評議員　木村義
評議員　木元紘一
評議員　倉持成一郎
評議員　小池聰太郎
評議員　木暮照子
評議員　小菅克祥
評議員　斎藤準一
評議員　清水龍男
評議員　鈴木貞二郎
評議員　高島謙一
評議員　高橋宏
評議員　戸ヶ崎直司
評議員　戸塚義男
評議員　中川邦明
評議員　長坂隆夫
評議員　永沼敬一郎
評議員　西澤脩
評議員　根岸仁司
評議員　橋本恭一
評議員　橋本幸三郎
評議員　長谷川雅敏
評議員　福島伸悦
評議員　藤倉浩
評議員　細井保雄
評議員　堀内崇
評議員　松平由美子
評議員　松本皓一
評議員　松本尚
評議員　武笠勇
評議員　村賀英介
評議員　本山禎一郎
評議員　森安正
評議員　諸貫健一
評議員　八木原保
評議員　山田晃
評議員　横川福治
評議員　横田保良
評議員　吉川正就
評議員　渡辺久記
評議員　綿貫守男
評議員　㈳行田青年会議所

幹事

幹事長　中川邦明
副幹事　渡辺久記
副幹事　大澤誠
幹事　大谷純一
幹事　戸ヶ崎直司
幹事　根岸仁司
幹事　橋本恭一
幹事　長谷川雅敏
幹事　細井保雄
幹事　横川福治

快適ガスライフ
サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして
(株)清水アーネット

第22回浮き城のまち行田「少年の主張大会」

清水龍男

平成十九年七月二十八日㈯十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十二回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、㈶忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十二回目になります。発表者は小学校六年生十六名と中学三年から八名の二十四名の生徒でテーマは学校・家庭・地域社会・環境・平和・将来の夢など力強く発表していただきました。特に本年は「いのちの重み・大切さ」を発表される生徒が多かったと感じました。

来賓挨拶の中で当財団の松平会長から「幸せの条件」についてお話しをされました。心身ともに健康であるか、どんな国に生れたか、地域がどんな環境であるか、よい友人はいるか、愛情あふれた家族に囲まれているか、そして更に学ぶ心（向上心）、志（こころざし）をもっているか等、豊な心を持って歴史と文化の香り高い人材に育って欲しい旨の述べ、㈶忍郷友会は出来ることからお手伝いをしたいと結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・田代理事・矢沢理事・山本憲作理事・井上評議員・遠藤事務局・清水評議員の参加をいただきました。来年も多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

最優秀者作品　四作品

大切にしたい日本人の心

星宮小　根岸　理絵

わたしの家では、季節ごとに毎年欠かさず家族そろって行う行事があります。お正月の親せきの集まりから、冬至、節分、お彼岸、お盆、そして十二月のもちつき、大そうじまで、ほぼ毎月のように続きます。それらは、先祖代々、我が家に伝わっているそうです。

季節ごとの行事は、季節感を味わえたり、親せきの人に会えたりする楽しさもありますが、

「面倒だな。なんでやるんだろう。」

と、思うこともあります。また、友だちに話すと、

「へえー、そんなこともするんだー。」

と、びっくりされることもあります。

ある時、わたしが母に頼まれた仕事をしぶしぶ手伝っていると、父が、

「昔はどの家でもやっていたことなんだ。一つ一つの行事には意味があり、その中には、昔から日本人が大切にしてきた家族のきずなや幸せを願う思いがこめられているんだよ。」

と、話してくれました。

そう考えると、おひな様は、女の子の健やかな成長を願うお祭りです。わたしは三人姉妹ですが、おひな様を飾るときは、母と四人でおしゃべりをしながら飾ります。終わると部屋がぱっと明るくなり、わくわくします。

また、昔、祖父が、

「十五夜と十三夜のころは、稲かりをして、麦をまく準備をしたので、お月様によく実りますようにとお願いをするんだよ。」

と、教えてくれたことがありました。

わたしは、幼い頃からこれ

らのことを深い意味も考えずに当たり前のように繰り返してきました。でも、一つ一つには、家族を大切に思う気持ちがこめられていたり、自然の実りへの感謝や願いがこめられていたり、日本人が昔から大切にしてきた『こころ』があるのだと気付きました。

わたしの住んでいる星宮の上池守地区には、毎年、天神様のお祭りや、観音様でのすもう大会があります。わたしは、毎年、おみこしをかついだり、たいこをたたいたりしてお祭りに参加していますが、こうした地域の行事もみんなの幸せを願う気持ちがこめられているのだとよく分かってきました。今年も妹をさそってすもう大会に出るつもりです。そして、そういう行事を続けてくれている父や母、地域の方たちに感謝しなければいけないと思います。

昔から大切にしてきた日本人としての心を

これからは、もう少し意識して、大切に感じながら、日々の生活を送っていきたいと思います。

大切な命

六年一組　鈴木瑛璃菜

「おじいちゃん、がんばって。」この願いが届くことなく、三月三十日、私のひいおじいちゃんはなくなってしまいました。

あれは、二月八日の事です。ひいおじいちゃんは、体の四十パーセントを焼いてしまうという大やけどをしてしまいました。救急車ですぐに病院に運ばれ手当てを受けましたが病院の先生からは、七十八才という高れいのうえ、かなりひどいやけどのため二、三日もつかどうかという話を聞かされました。私はこのことを母から聞き、

「えっ、うそでしょ。だってこの前会った時

は、あんなに元気だったし、毎日畑に行って働いていたのに。」

としばらく信じられませんでした。入院している間おじいちゃんは、集中ちりょう室に入っていたので、小学生の私は中に入ることができず、やけどとたたかっているおじいちゃんの顔を見ることができませんでした。母がお見まいに行ってくると、おじいちゃんは意識がないのに話しかけると笑うこと、体のあちこちに十本以上の点てきのはりがささっていて痛々しくてかわいそうなことなどを聞きました。病院の先生に「もうだめだよ。」と何回も言われていたのに、毎日毎日がんばっていました。おじいちゃんは、生きたいという思いが強かったのでしょう。

しかし、三月三十日。大やけどをおって一ヶ月半。ついに力つきてかえらぬ人となってしまいました。あんなにがんばっていたおじいちゃん。おじいちゃんがいなくなってしまったということが信じられず、大きなショックを受け、家族みんな、涙が止まりませんでした。家族だけでなく、おじいちゃんがかわいがっていた犬でさえ、何かを感じたのでしょう。クゥーン、クゥーンという今まで聞いた事のない泣き声をあげていました。人だけでなく生き物も大好きな人の死を悲しむ気持ちがあるんだなあとますますやりどころのないつらい思いがしてきました。

毎日、殺人や自殺といった暗いニュースが報道されています。命とはそんな軽いものでいいのでしょうか。生きたい、もっと生きていたいという願いをもっていても病気や事故で命が絶たれてしまう人もたくさんいます。

おじいちゃんの死から、私は命の大切さや重みを学びました。これから生きていくうえで、つらい事や悲しい事があっても、私はおじいちゃんの分までがんばって生きていきたいです。そして、命の大切さをもっと多くの人に伝えていこうと思います。

心のサイン

埼玉中三年　大野　萌子

皆さん、隣の人の考えていること、分かりますか？「分からない」のが普通ですね。でも、その人が何を考えているのか、話さなくても分かるのではないでしょうか。好きな人が考えていること、親の怒りそうなこと、分かるでしょ。

ところで、皆さんはサインと聞くと何を思い浮かべますか？芸能人のサイン、Vサインなど、世の中にはサインと名のつくものがたくさんあります。実はその中に「心のサイン」というものがあるのです。

心のサインて何？と思うかもしれません。確かにそうです。サインだけなら分かるけれど、なぜ「心」がつくの、と考えます。それは、声に出すことのできない、気持ちを伝えたいけれど言えない、言わば心の叫びなのです。私は、このサインに気付けなかった悔しい思い出が二つあります。

ひとつは、近くに住んでいた祖母が脳梗塞で倒れ入院した時のことです。最初のころは、よくお見舞いに行っていました。日が経つにつれ、祖母はうまく話ができなくなり、手も不自由になってしまいました。私は、そんな祖母を見てられなくなり、そして中学校に入学して忙しくなったことも重なり、全然病院に行かなくなりました。そして、虫の知らせなのでしょうか。ちょうど、祖母が亡くなる一週間前に、お見舞いに行ったのです。しばらくそばにいて帰るとき、祖母はいつも以上に淋しそうで、何か言いたそうな顔をしていました。今思うと、祖母は最後の伝言があってあんな顔だったのか、そのサインに気付けなかったのか、という心残りがあります。

その後、学校行事である職場体験学習で、祖母のいた病院で看護士の仕事の体験をしました。その中で、患者さんの食事の手伝いをやらせてもらいました。前に祖母にやっていたので、そんなに苦ではありませんでした。食後、私はその患者さんに「何かをして」と言われましたが、肝心の何をしたらいいのかが分からず「えっ？」と考えてしまいました。すぐに看護士さんを呼び、対応してもらいホッとしました。しかし、患者さんの心のサインが分からなかった、何も出来なかった、という悔しい気持ちが、今でも思い出すたびに込み上げてきます。祖母のことや職場体験は、私にとって貴重な体験であり、自分の無力さや「心のサイン」について考えるきっかけとなりました。

私達は、口という唯一自分の気持ちを周りの人にはっきりと伝える部分があります。しかし、はっきりと伝えすぎて、又は伝えなかったのが原因で友達や家族とギクシャクして、けんかになってしまったり、あるいは殺人や、自殺などの事件になってしまったり、というのが現代の傾向だと思います。はっきり言うのも大事、あえて言わないことも大事です。そして、なによりも相手の心を思いやる「心」が大切だとは思いませんか？この人は「何て思っているのだろう？」とか「こうやってほしいな。」と考えてみて下さい。少しわかったような気がしませんか。こんなことに気をつけていると、自然に相手の「心のサイン」を感じ取ることができ、友達や家族との絆が一層深まると、私は思います。そして、世界中の人々が周りの人のサインに気づき、相手のことを思いやる優しさを持てる社会になれば、様々な悲しいニュースが減っていくのではないでしょうか。

私は今、将来のことを深く考えてはいません。しかし、これからもたくさんの人と接し、経験を重ね、人の心を感じ取れる人になれるよう、心を磨いていきたいと思います。　あなたは、心のサインを感じ取る「心」を持っていますか。この答えは、自分自身にしか分かりません。自分の心に尋ねてみてください。もう一度聞きます。

あなたは、心のサインを感じ取る「心」を持っていますか。

声にならない言葉を伝えよう

行田市立見沼中学校三年　栗原沙也佳

「沈黙は、長い間中立と混同してとらえられており、人道的な活動の必要条件とされてきた。」

先日、人権作文を書くための題材をさがしていた私の目に飛び込んできたのが、この言葉でした。はたして、沈黙は平和へとつながっていくのでしょうか。

世界にはさまざまな事情で、助けを求めることの出来ない人々、助けを求めているのにその声が届かない人々がたくさんいます。例えば、紛争地に住んでいる人、感染症の流行に苦しんでいる人、今日の食糧でさえも口にすることのできない人たちです。私には帰る家があり、当たり前のように好きなだけ食べ、何も言わなくても手を差し伸べてくれる家族や友達がいます。でも、それは決して当たり前のことではなく、むしろ世界全体では、助けを必要としている人の方が圧倒的に多いのです。彼らはそのつらい生活を自ら求めたわけではありません。また、私も自分で選んでこの幸せをつかんだわけでもありません。それはまさに偶然であり、もしかしたら私が今、苦しむ立場に立っていたかもしれません。この世界に生きる人々は同じ人間であり、平和へとともに歩む仲間です。だから、助けが必要なのに、声に出すことのできない人々の言葉に耳を傾け、理解し、伝えていくことが私たちの使命だと思います。

言葉を用いて自分の意思を明確にし、相手に伝えることは、今の私には当たり前のことのように思えます。その、自分の意思を伝える権利は、他人の利益や欲のために失われることがあってはいけないのです。

しかし、現状はどうでしょうか。先程も言ったように、自分の思いを言葉にすることができない人、その声を聞こうとしない人があまりに多いように思います。自分の思いが届かず、耳を傾けてくれる人がいないがために、声を押し殺して泣く人がいます。それを知らない人は何も察することなくいつもと変わらない毎日を送ります。そういう現状が、「沈黙は、人道的活動の必要条件だ」という風潮につながったのではないでしょうか。そして今日も、何の罪もない人々の命が無差別に失われていくのです。人間の命はどんな人でも価値のあるものであり、誰もそれを奪う権利などないのです。生きている、という事実だけで大きな価値を持つものなのです。その価値を生かすためにも、今、言葉を発することの自由を誰もが持つこと、これを訴えていかなくてはなりません。

政治組織には国境があります。ですが、私たちの心には壁はないはずです。私は、世界の人々すべてが、平和に過ごせる日はそう遠くないと信じています。そのためには、一人一人が自らの利益や欲に心を奪われず、他人のためを思い、言葉にしていくことが必要です。

まず、さまざまな事情で、言葉にできない人々の心の叫びを聴きませんか。そして自分は何を言葉にすればよいか考えてみませんか。

そうすれば、言葉で自分の意思を発することのできない人々の、悲しみにまみれた心が見えることでしょう。

沈黙は平和をもたらすのでしょうか。いいえ、私は自分の意思を言葉にすることこそが平和への一歩だと思います。

私は今、こうして自分の思いを伝えることができる幸せを実感しています。このように、発言の自由を全ての人が持てる世界になったとき、私たちの未来も無限に広がっていくように思うのです。

読書推進運動

学校図書寄贈贈呈式

忍郷友会創立百周年記念事業の継続である学校図書寄贈は、読書推進実行委員会において慎重審議の結果、本年度を最後の年度として次の三校に贈呈した。

日　時　平成十九年五月十八日㈮
　　午前十一時より
会　場　行田市教育委員会教育長室

寄贈校
行田市立北小学校校長　春山　教子様
行田市桜ヶ丘小学校校長　飯塚　修様
行田市太田西小学校校長　関根　勇様

当日は前記三校の校長先生のほか次の方々が出席された。

行田市教育委員会
教育長　津田　馨様
学校教育部長　新井　敏夫様
次長　松井　正俊様
教育総務課長　宮崎　薫様

財団法人忍郷友会
会長　松平　忠昌氏
事務局長　小山　博氏
委員長　江草　忠敬氏
理事　矢沢　大和氏
評議員　木嶋　清氏
監事　板倉　安男氏

なお、贈呈式終了後関係者一同が別室に集まり、懇談の会が持たれた。①六月中に希望図書のリストを提出して頂き、②七月中の夏休み前に納書する。という計画の説明があり、各校の校長先生も了解された。

ステップアップ読書推進運動

読書推進実行委員会
委員長　江草忠敬

平成十八年六月三日㈯午前九時十五分より「第五回読書推進支援講演会」が行田市教育文化センター「みらい」で開催されました。

講師として受講者より再登場の要望が有った児玉博美先生（JPIC読書アドバイザー、台東区中央図書館非常勤司書）にお願いしました。

演題は　～読む・感じる・そして続ける～　副題　読み聞かせから読書への誘いと題して行なわれ、参加者は行田市及び周辺の読み聞かせボランティア、図書館司書、PTA父兄や小学校の先生方およそ四十名でした。

講演、研修の内容は次の通りです。

第1部「講　演」

テーマ
「読み聞かせ・読書・ことば」
「子どもの成長に合わせた本についてマスターしましょう」
「年齢別の読書の能力はどうでしょうか」
「子どもの本・紙芝居などの特色と評価はどうでしょう」
「お話し、ブックトークなどの際のお話し会に一工夫あると記録を残すことが以外に大切で役に立ちます」
「お話し会と著作権について知っておくことも大切です」
「読書推進活動とボランティアのあり方についてもっと学びたい人に一言アドバイスしましょう」

児玉博美先生

第二部「ワークショップ」

全員参加で実例を挙げながら「ブックトーク」

今回は講演会終了後、ボランティア活動をされているグループ代表の方々にお集まり頂きグループ間の連携プレーの可否に付いてフリーディスカッションをして頂きました。更

に今後、当会の活動に結びつく貴重なご意見をお聴きすることが出来ました。

ここで過去五回を振り返ってみますと、講演会、研修会（以下講演会という）が行田市教育委員会後援を得て開催され、その間四名の講師をお招きしました。各講師は事務局と相談し夫々異なるテーマを設定し講演した。各講師とも多様な個性があり、受講者にとって啓発される点が多々あったと考えられます。

受講者は第一回　六十三名、第二回　五十八名、第三回　五十五名、第四回四十一名、第五回　四十名で延べ二百五十七名です。

一回以上の受講者は、延べ百四十九名（申込者数百五十二名受講率九十八％）です。なお、五回全てに出席された受講者は、各グループのリーダー格とみられ、読み聞かせ活動で指導力を発揮している方々と推測されます。

主な参加グループは次の通りでした。はらっぱらっぱ、お話しタンバリン、お話しの会「虹」、虹色ハーモニカ、行田朗読の会、お話玉手箱、さくらんぼ、三ちゃんクラブ、下忍小ボランティア、子育てネット行田、南小ボランティア、東小ボランティア、北小学校よみきかせ隊、埼玉小学校ＰＴＡ以上十四団体であります。

今期の委員会計画として、日本で一番早く官民一体となって読書推進を押し進めている茅野市読書推進運動の現場訪問を企画いたしましたが、日程調整が付かず中止となりました。

本会の諸活動は行田市の一般市民、教育関係者、ＰＴＡ、ボランティア活動されておられる方々に浸透し始めております。今後日常的にいかに継続していくか、真価を問われる大事な時期ではないでしょうか。

三月に開催された今期最終の委員会において、今後の委員会の活動方針が検討されました。その結果、現在国を挙げて教育改革の推進がおこなわれておりますが、身の回りで起きている現状を分析すると、子どもを育てる親の教育感、特に親学・家読（うちどく）が重要と見られます。幼児や児童の読書推進のネックは、親の言行や教育観にあるとさえ判断され、親の読書感が変われば子供の読書推進が効果的に改善されると思われます。この点に当委員会としては援助の手を差し伸べることが必要ではないかという結論になりました。具体的には、保育園、幼稚園に通う親や保母・先生方を対象として、子育てに役立つ読書運動、具体的には幼児を対象とした読み聞かせ方法の講習、実技と児童書・絵本の贈呈などを展開することになりました。

読み聞かせ講習会

日　時　平成十九年十一月十八日(日)
　　午前九時十五分～十一時四十五分
場　所　中央公民館第一学習室（みらい）
講　演　「だれでもできる読み聞かせ
　　～子どもたちは待っている～」
講　師　村上　淳子 先生
　　（常葉学園大学非常勤講師）

今、子どもたちはテレビやゲーム、あるいはケータイに夢中で本を読まなくなっています。

読書離れ、活字離れには著しいものがありますが、子どもたちはまだ本の楽しさを知らないわけです。「読み聞かせ」はこうした子どもたちに本の世界の楽しさを伝えていく思いが込められています。

本が好きな人なら　だれでもできる「読み聞かせ」ですが、初めての人、もうすでに実践している人も、もう一度勉強し直してみたい方々のために、村上先生の実践を交えた有意義な講演会が開催されました。

三端懇話会に参加して

平井ユリ枝

今年の夏は連日の猛暑が続き、八月二十二日、第七回三端懇話会の当日も大変な暑さで、行田市内八中学校各二名の十五名（一名欠席）進修館高校より四名、推薦をいただいた十九名の生徒さんが参加しました。

今回は、江利川毅さんが御講演なさるということで、同級生である私にもお誘いがあり、参加させて頂きました。行田よりバスで霞ヶ関ビルに向い、車中にて参加者の自己紹介や将来の夢などをお伺いし、また小暮照子さんに、フランス料理のマナーを優しく心のこもった御教授を頂きながら、和気あいあいのうち到着しました。

松平会長さんのにこやかな頬笑みのお迎えを受け、生徒さんたちは連綿と続かれた御家系にお驚きと感動の目差しで、御一緒に三四階よりの風景をお楽しみくださるお姿に感激していました。江利川さんの御講演は、車中にて配布されたレジメを元にお話くだされたので、良く理解できたことと思います。

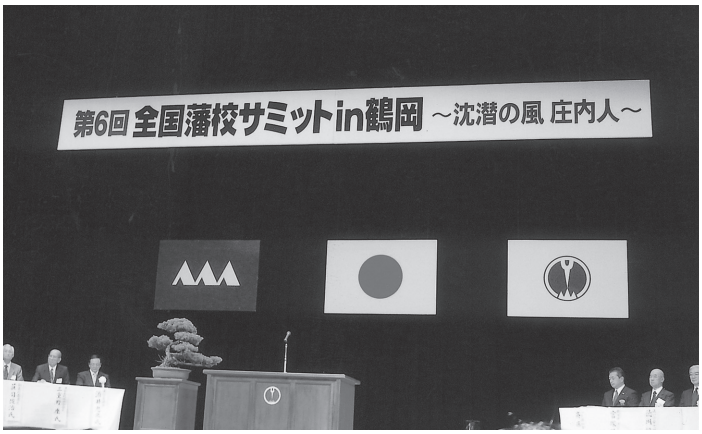
はじめに三端の意味に触れられ、立派な人間になるために何が大事か。吉田松陰の三端の教え（立志・択交・読書）。端とは、正しいこと、きちんとしていることの意味があることなど、易しく御説明くださいました。『なぜ国家公務員になったか』人々や社会のために役立つ仕事がしたい、公害問題に取り組みたいという思いで、公害部のある厚生省を選ばれたこと。『若い頃の夢』天文学者、宇宙探検と夢いっぱいの少年時代、奮い立たせた言葉として、小学校の担任の先生の言葉。広い地球の中で、長い歴史の流れの中で、君という人間はただ独り、自分を大切に、自分を生かして。また、お父さまから教えて頂いた漢詩等を御紹介してくださいました。心暖まる思いでした。

『国家公務員としての仕事、思い出に残る仕事として』医療保険制度の改正。毎年一兆円ぐらい増え続ける医療費の増分をどうするか、苦慮されたが、改正内容の正しさと常日頃の信頼関係があって、実現できたこと。『仕事をする上で大事にしたい事』一、志（夢）二、責任感三、良心（正義と思いやり）これらを実践することで、多くの信頼関係を築くことができる。最後に、自分を磨くこと。そのためには、良書を読んだり、出会いを大切に。多くの人に会い、多くを学ぶ。生徒さんたちは、熱心に聞き入っておりました。立派な質問をした生徒さんがありこんな頼もしい若者がいることに感心し、この経験を生かし、それぞれがすばらしい人生を送ってくださることを、願わずにはいられませんでした。江利川さんみたいな先輩のいること、きっと誇に思われたことでしょう。

講演の後、フランス料理のフルコースを味わい、シェフから料理の説明を受け、楽しい会話とともにおいしく頂きました。帰路は貴重な経験とたくさんの感動を胸々に行田に戻りました。参加させて頂いた感謝と三端懇話会の意義を痛感した一日でした。ありがとうございました。

第六回 全国藩校サミットin鶴岡

奥田七寿



平成十九年六月二十三日㈯第六回全国藩校サミットが「沈潜の風」と言われる庄内人の地・鶴岡にて、全国から藩主直系の十七人の当主と三十八の藩校関係者が参加され、開催されました。過去最大規模とのことですが、盛大な大会と参加者の熱意に感動いたしました。

一　サミットに先立っての記念行事として行われました。

㈠庄内藩校「致道館」見学

江戸時代の文化二年（一八〇五）に開校され、文化十三年（一八一六）政教一致をはかるため鶴ヶ岡城の三の丸にあたる現在地に移されました。御入間・講堂・聖廊・門などの建物が残っており、現在国の指定史跡となっている。館内には祭器や版木などの藩校資料や徂徠学の文書・致道館ゆかりの方の遺墨が展示されていた。

㈡荘内松山藩荻野流砲術隊演武式見学（致道館東構内）

松山藩荻野流砲術隊は礼式と実践配置の演式を行う全国唯一の隊です。「点射」「置き放し」の二射法による演式が行われた。本物の火縄銃を手に、「打て」の合図とともに胸を突くような発射音に、多くの見学者からは、驚きと歓声、そして拍手がまき起こりました。

二　サミットは午後から致道館の隣にある鶴岡市文化会館で行われました。

㈠構成吟「光あり　藩校　致道館」として有志の方により、漢詩「荘内賛歌」「太平洋上の作」「中蠶を憶う」「致道館を過ぐ」、論語素読、単価「今もなほ」が吟唱された。

㈡記念講演

寒河江市立陵西中学校教頭

渡辺　信氏

「藩校致道館～武士の学校・江戸の学問」次の項目をもとに話をされたが「致道館のシステム化された教育方針、自学自習、長所を伸ばす等は大変注目される点だ」と述べられた。

①藩校の意味とその数
②儒学思想の流れと藩校
③藩政改革と藩校の創設
④致道館の教育
⑤正学派朱子学と医学校等の併設
⑥藩の持つ使命と藩校

㈢基調講演

斬文会理事長・二松学舎大学顧問

石川　忠久氏

「荻生徂徠とその門人たちの詩」五点の漢詩作品・作者の解説がされた。

奇題豊公舊宅に奇題す　荻生　徂徠
甲斐客中　甲斐客中　荻生　徂徠
稲叢懐古　稲叢懐古　太宰　春台
夜下墨水　夜墨水を下る　服部　南郭

徳川恒考氏と奥田七寿氏

嘲道士出山
道士の山を出づるを嘲る
伊藤　藍田

㈣パネルディスカッション　コーディネーター　漢字文化振興会　事務局長　白石　宗靖氏

「藩校教育を今に生かす」藩校精神を受け継いだ活動状況についての発表と討論が行われました。パネリストは以下の方々です。

徳川　恒孝
（徳川宗家第十八代当主、徳川記念財団理事長）
樋口　尚樹
（山口県萩博物館副館長）
森本　明美
（岡山県立和気閑谷高校校長）
宗像　精
（福島県会津藩校日新館館長）
植松　芳平
（山形県酒田市・生涯学習施設里仁館館長）
富樫　恒文
（山形県鶴岡市立朝陽第一小学校校長）

㈤全国藩校サミット宣言採択

「全国各地の関係者が手を携え、藩校の果たしてきた役割や意義、精神、学問、教育内容を再確認し、漢字文化をはじめとする我が国の伝統文化を継承するとともに、現代社会に対応した方策を創造することによって、今後の学校教育、地域教育、家庭教育に生かした文化社会の構成に寄与することを誓う」宣言が採択された。

㈥次回は平成二十年　熊本藩　熊本市での開催が決まった。

㈦サミット終了後、東京第一ホテル鶴岡にて、約二百四十名の参加者による交流会が盛大に開催されました。山形の銘酒や料理を嗜みながら、徳川恒孝十八代当主を始め各藩校関係者との懇談で有意義で楽しい一時を過しました。

三　二十四日㈰は希望者による視察研修が企画され、当参加者全員が参加した。案内スタッフの熱心な説明と心配りにより、遠い昔庄内を拓き栄えさせた歴史・文化を学び楽しむ事が出来ました。見学場所→松山城大手門・総光寺・松山伝承館・里仁館・荘内南洲神社・土門拳記念館・山居倉庫・酒田夢の倶楽・本間家旧本邸・本間美術館

※　当会の参加者は、田代理事、進修塾・川田幹事、荻野谷・井上・飯島指導員を含め六名です。参加者全員が強く感じたことは、致道館・松山伝承館・荘内南洲神社等に藩校資料の他、ゆかりの方々の遺墨類が圧倒的な量で展示されているのには驚きでした。それに引き替え忍藩々校関係の資料の貧しさはお寒い限りのようです。何とかならないものなのでしょうか？

今後も機会を得られれば是非参加させて頂きたいと思っております。

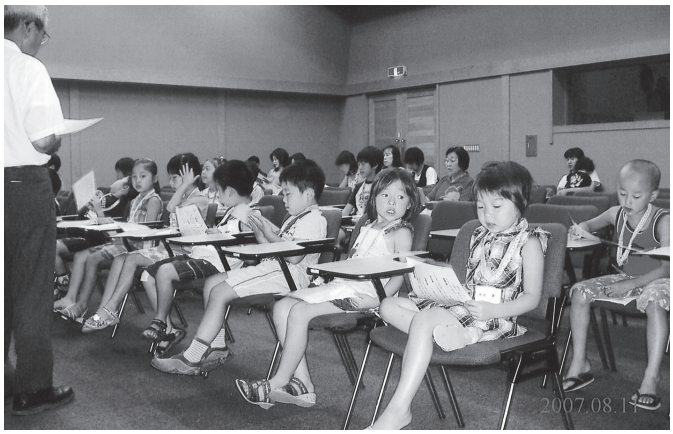
進脩塾活動

田代　敬二

進脩塾活動の四部門をご紹介します。

一　素読教室

会場を行田市郷土博物館（忍城御三回櫓）講座室とし、毎月第一、第二、第三土曜日の午前九時三十分～十時十分までが上級組の素読、二の組は平成十七年四月から始めて本年の八月までで論語百章をマスターしましたので、九月から「大学」の素読に励んでおります。これに小林康男先生ご都合のつく日は俳句の素読が加わります。現在十三名在籍。その後午前十時十分からの三十分間が初級組の素読で、論語・俳句・漢詩を行います。八名在籍。この素読分野は先ごろの中教審において「論語」「俳句」など古典作品の音読が取りあげられた事から、漸く日本語授業



の見直し論が紙上に散見されるようになりました。このことから(財)忍郷友の素読教室の存在は、民間教育又は社会教育実践の場として全国から注目されることになるものと思われます。

二　定例講座

（論語）は会場を行田市商工センターとし第四土曜日の夕、午後六時二十分～八時からは会食会となり、道友間の談論風発の場となります。

現在（平成十九年十二月迄）論語講座は八十七回を数え、明年中には「論語」二十篇四百九十九章を総て終了することになりますが、益々心を引き締めて先賢の道を尋ねる研鑽を重ねて参りたいと存ずるものです。

三　漢字文化講演会

（市民公開講座）

①春の講座

日　時　平成十九年二月二十四日(土)
　　午後二時～四時
場　所　行田市教育文化センター
　　第一学習室
講　師　土屋　秀宇　先生
　　日本漢字教育振興会理事長
演　題　「日本語たんけん漢字の面白さ再発見」－漢字は「成立ち」を理解すれば楽しく覚えられる－

②夏期緑蔭講座

日　時　平成十九年八月二十五日(土)
　　午後二時～四時
場　所　行田市商工センター
　　四〇一会議室
講　師　謡口　明　先生
　　文教大学文学部中国文学科教授
演　題　「論語に学ぶ家庭教育」

※　①、②二回行われた市民公開講座とも、講演に先立って素読教室の十八名の児童たちによる素読発表会が行われました。音吐朗朗と論語・漢詩を斉唱する姿を見て、一般市民聴衆は勿論ですが、講師の両先生も大変感動され、先進の素読教室として全国各地から注目の存在になることであろうから、今後とも精進して欲しいと激励されました。

四　ケーブルテレビ放映

行田ケーブルテレビにて毎月定例講座、公開講座（文化講演会及び素読教室発表会）の様子を毎月放映している。

※　毎月三回の素読教室は左記六氏の方々の協力によりつつがなく行われている紙上を借りて感謝の意を表したい。

論語講師　水野　孝市
俳句講師　小林　康男
指導員　奥田　七寿
　　川田　隆生
　　荻野谷麗子
　　遠藤　初枝

平成19年度 会費納入者

法人会費

（会費二万～五万円）

㈱有斐閣（江草　忠敬）
大野建設㈱（大野　年司）
公認会計士（奥貫　健一）
㈲中央百貨店（川辺　秀夫）
ガクヤ㈱（小池　英輔）
㈱東旭（小菅　克祥）
小山商事㈱（小山　博）
㈱清水アーネット（清水　孝男）
㈱共同バス（鈴木　秀憲）
㈱田代商事（田代　敬二）
㈱長島不動産（長島　康雄）
㈱サンワックス（山田　晃）
㈱行田セレモニー（横川　福治）
湯本内装㈱（湯本　茂作）
渡辺㈱（渡辺　栄一）

役員会費

（会費一〇、〇〇〇円）

青柳　憲助　新井　啓介　新井　友一
飯田　芳幸　飯野　暹　飯塚　利男
板倉　安男　市川　芳正　井上　啓子
岩崎　安裕　碓井　勝也　永島　健雄
江草　祥子　榎本　晃三　江原　史郎
江利川　毅　大澤　誠　大谷　純一
岡安　徳一　小川　雅以　小澤　誠邦
加治　久明　加藤　正隆　加藤　力也
木嶋　清　木村　義　木元　紘一
黒渕　陽夫　倉持成一郎　小池聰太朗
木暮　照子　斎藤　準一　須郷　榮司
清水　義夫　清水　龍男　鈴木貞二郎
戸ヶ崎直司　戸塚　義男　中川　邦明
長坂　隆夫　永沼督一郎　西澤　脩
橋本　恭一　長谷川雅敏　古市　實
福島　伸悦　藤倉　浩　保泉　欣嗣
堀　岩夫　細井　保雄　松平　忠昌
松平由美子　松本　皓一　松本　尚
水谷　剛蔵　宮川　公男　武笠　勇
村賀　英介　本山禎一郎　森　安正
諸貫　健一　八木原　保　矢澤　大和
柳原　承光　山本　憲作　横田　保良
吉川　正就　渡辺　久記　綿貫　守男
㈳行田青年会議所

正会員会費

（会費五、〇〇〇円）

相田　正代　秋山　節　阿部秀二郎
鮎川　渡　新井　誠　新井　昌夫
飯島　千裕　飯塚　正夫　五十嵐亥三生
井桁　浄継　今井　福司　岩崎　利一
植田　次郎　内田　一也　江草とみ子
江黒　宏　遠藤千枝子　遠藤　初枝
及川　礼子　大木　典子　大熊　誠
大谷　龍良　大谷　安雄　岡田　則之
荻野谷麗子　奥田　七寿　小澤光太郎
小幡　和佑　柿沼　満　柿沼　京子
加瀬田　健　加藤　一夫　加藤　誠一
鎌田　実　鴨田　武　上村　隆史
川島　清　川田　隆生　川鍋　重寿
川鍋　友行　岸　誠太郎　国島　正江
倉田　耕市　栗原　省二　栗原　卓男
小池　利昌　小島　敏男　小林　敏則
小山喜一郎
飯島　敬司（埼玉県信用金庫行田支店長）
斎藤　慶一　斎藤　恒　斎藤　操
正田　善洸　増田　育雄（進修館高校校長）
鈴木　寿子　鈴木スイ子　須郷　隆
須郷　和美　鈴本　達哉　関根　俊一
瀬山　文孝　高澤　英子　高橋　貞雄
滝田　芳人　田熊　宏次　田島　正雄
田代克太郎　田中　利幸　棚沢　孝一
津田　馨　富田　文子　鳥海恵理子
内藤　利男　長野　武俊　新島　璋紀
野口　昭夫　信沢　精一　野村　正幸
芳賀　道子　長谷川賢治　長谷川盛雄
長谷見輝生　蓮見　牧子　羽鳥　弘
羽鳥　利明　半田　太　平井ユリ枝
二味　宏　古市　恒裕　古沢　勇治
古橋　一廣　増山　忠男　松岡　由浩
松田　招蔵　松本　健一　松本　光弘
丸山　和雄　三島　務　水谷　清致
水谷　良二　武笠　直義　目崎不二夫
持田　朋春　本山　浩　森田純之助
矢口隆一郎　矢嶋　義和　安田　裕信
横山　絜　吉田　修　吉田　寿夫
吉田　稔
堀籠　秀直（埼玉りそな銀行行田支店長）
渡辺　幸子　渡邉　昭孝　渡辺　邦道
（平成十九年十一月三十日現在）

進脩塾会費

（一〇〇、〇〇〇円）
鈴木　秀憲　小沢　誠邦

（五〇、〇〇〇円）
清水　孝男　横川　福治

（三五、〇〇〇円）
田代　敬二　川辺　秀夫

（三〇、〇〇〇円）
吉川　正気　木村　義

（二〇、〇〇〇円）
鈴木貞二郎　木嶋　清

（一〇、〇〇〇円）
小山　博　矢澤　大和
中川　邦明
新　永次
渡辺　邦道
遠藤　初枝
山本　憲作
奥田　七寿
野村　昭
藤田　久仁

平成19年度 事業行事経過メモ

1 総会

①定時総会開催

（理事・評議員会、講演会・懇親会）

日　時　平成十九年六月十日(日)
　　午後二時～午後八時
　　参加者七十七名

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来　賓
　衆議院議員　小島　敏男様
　元内閣府事務次官　江利川　毅様
　埼玉県議会議員　鈴木　聖二様
　行田市長　工藤　正司様
　行田市議会議長　岩田　譲啓様
　行田市教育委員会教育長　津田　馨様
　行田市教育委員会委員長　鏡　スミ様
　行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男様
　行田商工会議所副会頭　小川　雅以様
　行田商工会議所副会頭　川辺　秀夫様
　行田ロータリークラブ会長　小池　利昌様

松平忠昌議長より平成十八年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演
「忍藩主阿部家と行田市」
―忍城改築と行田のまちつくりは阿部家時代から始まった―
講　師　忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖様

懇親会　アトラクション
「雅楽」の演奏
出　演　大谷喜代治と雅楽天神会

2 役員会

①理事・監事合同準備会

日　時　平成十九年四月二十日(金)
　　午後十二時三十分～午後三時

会　場　東京・㈱有斐閣本社会議室

審議事項
1平成十八年度事業報告書（案）について審議
2平成十八年度決算報告書（案）について審議
3平成十八年度の事業・決算に係わる監査

4平成十九年六月十日(日)総会開催準備会
5その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②理事会、評議員会

日　時　平成十九年六月十日(日)
　　午後二時～三時三十分

会　場　ベルヴィアイトピア

審議事項
1平成十八年度の事業報告がなされ審議・承認
2平成十八年度の決算報告がなされ審議・承認
3平成十八年度の事業に係わる監査について報告された
4副会長及び東京支部について

③臨時理事会

日　時　平成十九年九月十一日(火)
　　午後四時～七時三十分

会　場　アドバンテスト・クラブハウス

審議事項
1芳川波山の顕彰事業について
2本部役員および東京支部について
3　その他

③臨時理事・監事合同準備会

日　時　平成十九年十一月十八日(土)

会　場　行田市・アドバンテスト行田クラブハウス

審議事項
1平成二十年度（平成二十年四月一日～平成二十一年三月三十一日）事業計画（案）について
A「進脩塾」事業計画案について審議
B「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
C「三端懇話会」事業計画案について審議
D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
2平成二十年度（平成二十年四月一日～平成二十一年三月三十一日）予算（案）について審議
3平成二十年六月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について
小山　博事務局長より、平成二十年六月二十一日(土)に開催したいとの提案があり審議
4その他

3 教育奨励事業

①進脩塾活動

公開講座①
第五回「漢字文化講演会」と「素読教室発表会」

日　時　平成十九年八月二十五日(土)

会　場　行田商工センター
講　師　謡口　明先生
「論語にみる家族のあり方」
受講者　七十五名

定例講座
四月「論語」　荒井　桂先生
五月「論語」　荒井　桂先生
六月「論語」　荒井　桂先生
七月「論語」　荒井　桂先生
九月「論語」　荒井　桂先生
十月「論語」　荒井　桂先生
十一月「論語」　荒井　桂先生

素読教室
十七年度より田代敬二氏及び小林康夫氏が講師として低学年児童（四歳～八歳迄）を対象として開催。

②「第二十二回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰
日　時　平成十九年七月二十八日㈯
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
本会、松平　忠昌　会長より記念品を贈呈した。

③第七回「三端懇話会」
日　時　平成十九年八月二十二日㈬
会　場　東京霞ヶ関ビル三十五階
講　師　江利川　毅先生
聴講者　行田市内の中・高校生二十名参加
本会から、松平忠昌会長、渡辺栄一理事、山本憲作理事、矢澤大和理事、木暮照子評議員、平井ユリ枝会員、遠藤初枝事務局員が出席された。

④読書推進運動
1　第六回
読書推進支援講演会・研修会
日　時　平成十九年十一月十八日㈰
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
演　題　～だれでもできる「読み聞かせ」～
講　師　村上　淳子先生
常葉学園大学
教育学部准教授
研修会「難しく考えないで実際に読んでみよう」
聴講参加者五十名

2　学校図書寄贈目録贈呈式
忍郷友会創立百周年記念事業の継続である学校図書寄贈は、読書推進実行委員会において慎重審議の結果、本年度は次の小学校四校に図書を贈呈した
日　時　平成十八年五月十六日㈫
午前十一時
会　場　行田市教育委員会教育長室
寄贈校
行田市立北小学校校長　春山　教子様
行田市立桜ヶ丘小学校校長　飯塚　修様
行田市立太田西小学校校長　関根　勇様
当日は上記三校の校長先生ほか下記の方々が出席された
行田市教育委員会教育長　津田　馨様
行田市教育委員会教育総務課長　長谷川　博様
財団法人忍郷友会
事務局長　小山　博氏
理　事　江草　忠敬氏
評議員　木嶋　清氏
監　事　板倉　安男氏

3　読書推進実行委員会①開催
日　時
平成十九年三月十日㈯
午後四時より
会　場
行田市内アドバンテスト行田クラブハウス
議　題
①平成十八年度事業総括について忍郷友会百周年記念事業五年間の総括する
②図書寄贈、納書スケジュール贈呈式について

3　読書推進実行委員会②開催
日　時
平成十九年八月三十一日㈬
午後四時
会　場
アドバンテスト行田クラブハウス
議　題
①第六回読み聞かせサポーター講演・研修会開催について
十一月十八日㈰午前、行田市教育文化センター「みらい」
講　師
村上　淳子先生
（常葉学園大学教育学部講師）

4　慶弔

①叙勲・褒章授章
藍綬褒章　斉藤　準一様
武笠　勇様

②お悔やみ申し上げます
渡辺　時寛　様
（平成十九年八月二日逝去）
加藤　正隆　様
（平成十九年九月六日逝去）

5　会員増強対策

新入会者紹介（敬称略）

（紹介者　渡辺　栄一）

・松田　招蔵
行田市佐間二－四－一八
○四八－五五四－一六五八

・大木　典子
行田市行田六－九
○四八－五五六－二四二一

・柿沼　京子
市川市入船四－二○ライオンズマンション市川行徳四○一
○四七－三九六－○三一五

・増山　忠男
行田市谷郷三－九－六○
○四八－五五三－○五四一

（紹介者　小山　博）

・川鍋　友行
行田市棚田町一－五十三－十七
○四八－五五四－一五六○

・松岡　由浩
行田市小見一三九八－四
○四八－五五三－二三二三

・湯本　茂作
行田市埼玉三三三一
○四八－五五九－四六一一

・古沢　勇治
行田市向町二十五－二十
○四八－五五六－三三一二

・鴨田　武
行田市埼玉四一九○－二
○四八－五五九－四五○二

（紹介者　田代　敬二）

・奥田　七寿
行田市忍一－十六－二十五
○四八－五五四－二八七○

・川田　隆生
熊谷市上江袋五○○－一
○四八－五八八－一九五六

・荻野谷麗子
行田市城西三－三－十六
○四八－五五三－一三五○

・渡辺　幸子
行田市持田四－二十八－二十
○四八－五五六－八○八九

（紹介者　山本　憲作）

・加瀬田　健
行田市南河原二五九－一
○四八－五五七－一二七五

・鳥海恵理子
熊谷市小曽根六十二－三
○四八－五二六－二三八五

・水谷　良二
熊谷市柿沼八三七－十
○四八－五二六－八七四五

（紹介者　遠藤　初枝）

・滝田　芳人
行田市和田二一四－五
○四八－五五六－二四六○

・鈴木スイ子
行田市富士見町二－二十六－三十五
○四八－五五五－九四三六

・蓮見　牧子
行田市真名板一八四三
○四八－五五九－三○九七

（紹介者　木村　義）

・高澤　英子
行田市長野三－五－四十一
○四八－五五六－一七七四

・須郷　隆
行田市駒形一－十五－十八
○四八－五五四－六六二三

・須郷　和美
行田市駒形一－十五－十八
○四八－五五四－六六二三

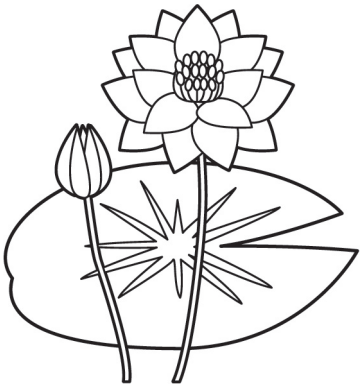
・羽鳥　利明
行田市長野一八九三－一
○四八－五五六－四六九○

（紹介者　黒渕　陽夫）

・栗原　卓男
板橋区成増三－十五－十八
○三－三九三八－四七四四

（紹介者　矢澤　大和）

・三島　務
行田市藤原町二－十一－十
○四八－五五六－六六五三



わが家のルーツを探し求めて

岩崎安裕

私がサラリーマンを退職し、事業を始めてから五年が経ち、多少とも心身にゆとりができ、わが家の祖先を調べてみようと思ったのです。

鎌倉時代からの系図、短刀、古文書、先祖代々の位牌、過去帳を調べてみました。岩崎家は甲斐源氏・武田氏の末裔と伝えられる。又岩崎姓は鎌倉時代、武田信光（甲斐源氏四代目）の子武田七郎信隆が甲斐国岩崎村（現　甲州市）で、鎌倉期以降岩崎村一帯に大きな勢力を張った氏族である。「甲斐国志」や「太平記」によれば、武田惣領職の相伝であるべき楯無・射礼を並ぶほどの勢いがあったという。

しかし長禄年間（一四五七・六〇）の中興の祖守護武田信昌（二十三代目）と守護代跡部景家との戦いで多くの戦死者を出し、以後勢力は著しく衰退した。（一五〇〇・一六〇〇年迄不明・調査中）

〝時は過ぎて江戸時代へ〟

◇　◇　◇

そして平成十二年九月十六日（秋晴れの国道一二五号をひたすら走りそこから見える壮大な富士の山が素晴らしかったことを覚えている）埼玉県城西三丁目（旧北埼玉郡成田町持田組）の桃林寺を尋ねた。親切丁寧に中川住職が寺の過去帳と照合いただき間違いないと判明し、一緒に現存の墓石を調べて行くうちに七基が確認でき、悲しくも無縁仏になっていたのでした。それから平成十二年九月彼岸を其に毎月墓参りと寺の行事には参加し、先祖供養をしております。

のちに住職より郷土博物館を案内され、系図・古文書をみてもらったところ、予期せぬできごとが発覚したのです。同席した学芸員の鈴木紀三雄様が突然系図をみるなり長容（ちょうよう）（岩崎角兵衛長容（ながかた））の末裔ですかと尋ねられ、岩崎家の資料は少なく捜していたとのこと、是非資料整理と解読させて下さいとの依頼を受けました。

長容は、埼玉県人名辞典にも掲載されている忍藩勘定奉行の要職にあり、行田市文化財に指定されている「忍名所図会」増補した先祖であることが判かったのです。それから間もなく、行田に度々来るのでしたら、「財団法人忍郷友会」に入会して交流されたらいかがですかと現理事田代敬二様を紹介され平成十三年十月三十日入会させていただき現在に至っております。

それから間もなく千葉県館山市にある安房国鶴谷八幡宮に参拝と、三重県桑名市の先祖が眠る真如寺・園妙寺・大福田寺を供養のため墓参りすることができました。〝先祖が見守ってくれているのでしょうか〟平成十七年二月二十七日には一人娘の結婚、婿養子を迎えることができました。平成十八年二月二十日には、初孫も授かり、孫で十一代目となります。

昨年七月には、郷土博物館主催第十七回テーマ展として「忍名所図会の風景」と題して先祖に関する資料と家宝を展開させていただきました。

また、十月には国立歴史民俗博物館主催平成十八年度企画展示『歴史のなかの鉄砲伝来・種子島から戊辰戦争まで』に先祖が描いた「炮術形状図式」（郷土博物館入館券にも使用されています）が展示され、改めて偉大さに感銘を受けました。お陰様で行田も身近になり、これからも市民との交流を深め、郷土のために微力ながら協力できればと考えております。

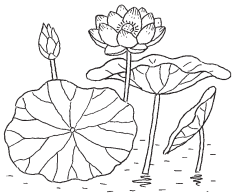
平成十九年十月吉日

蘆山白蓮

木暮照子

韓国景福宮蓮、インド蓮、中国古代蓮、アメリカ黄蓮、ロシアカスピカム蓮……

〝行田市古代蓮の里〟では、行田蓮を中心に、世界の花蓮が時を少しずつずらして開花します。大輪で花容が端正なハスの花がゆったりと揺れる様は、訪れる人々の心を優しく穏やかにします。蓮が「平和のシンボル」といわれる所以です。水と緑に恵まれ、また、東国古代史の宝庫である行田市にとって、蓮はまさに光明の花でしょう。今年も連鎖の輪が広がり、蓮の催事が随所で行なわれました。



七月七日　第三回「蓮の花めぐりカーオリエンテーリング」が開催されました。これは、行田商工会議所のご協力を得て、鈴木会頭、宗派を超えた寺院の御住職、芸術家、車の整備関係者などの実行委員会が主催したものです。走行タイム及び燃費を競うものではなく、市内近辺の地図上に指定された十五箇所のチェックポイントを捜し、クイズに答え、できるだけ短い距離で完走するゲーム性の高い観光めぐりです。交通規則を厳守し、安全運転への細やかな配慮がなされています。チェックポイントの中には、市指定文化財高大寺の「木造釈迦如来坐像」、県指定史跡「八幡山古墳」、国の有形登録文化財の「忠次郎蔵」などがあり、市の中心部から静かな田園風景、寺院めぐりを楽しむことができます。工藤市長の旗を合図に三十数台の車がスタートしました。

松平家の菩提寺、天祥寺では、中国白蓮が清々しく咲き、まさに見頃でした。その設問は、「大きな三基の墓は、松平家第○代忠尭公、第○代忠国公、第○代忠誠公のものである」と空欄を埋めるものでした。市外の参加者も多く、格式のある松平家代々の御墓に手を合わせ、歴史の繋がりを目の当たりにして、感慨深いものがあったようです。ポイントは、市内東西南北に分布して、走行距離は平均して六十㎞に及びました。

嶺雲寺では、淡紅の原始蓮が典雅に咲き、御住職が本堂にて交通安全を祈願し、お守りをお授けくださいました。当日の模様は、ユニークな催しとしてNHK首都圏ネットワークにて放映され、世界遺産登録を目指す「さきたま古墳群」とともに「蓮の街行田市」の名を一層高めました。今年は、郷土博物館が開館されて二十周年の節目に当たり、忍城主成田氏の企画展が開催され、貴重な品々が展示されました。そのゆかりの寺、清善寺に、蘆山白蓮が植えられています。蘆山は中国九江西南の景勝地として名高く、仏教の霊蹟で香炉峰などの古跡に富み、白蓮が多く名利に染まない人々の最適の会合の地とされています。東晋の僧慧遠（えおん）は念仏修行のための結社「白蓮社」を結成し、謝霊雲はそこに池を掘りこの白蓮を植えています。蘆山白蓮は花弁数、百枚前後の白の八重咲種で、外弁は帯緑色、花径は十八～二十四㎝、開花一～二日目の半開時には、豊かな花容を呈しています。また蓮の中でも特に清廉なこの白蓮は、別名、聖人蓮とも呼ばれています。古刹としての清善寺の佇まい、その御住職のお姿が、この蓮に重なるように見えるのは、私が蓮の姿を人の形に移し変えるのを仕事にしているからでしょうか。

清善寺の蘆山白蓮

御名刺掲載欄

東旭株式会社
代表取締役社長　小菅克祥
〒三六一―〇〇一六
埼玉県行田市藤原町一丁目六―一
TEL（〇四八）五五六―四五五一（代）
FAX（〇四八）五五六―四五五六

行田市
市民の皆様と共に築く行田「元気な行田」の実現に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします

行田市議会

堂上会
理事　柳原承光（旧　松平忠頴）
〒100-6034　東京都千代田区霞が関三丁目二番五号
霞が関ビル三十四階　霞会館内
電話〇三（三五八一）九一五一番（代）
〒100-0032　東京都港区六本木六丁目十六番五十号
電話〇三（三四〇八）五八七六番

『蓮・心・形　木暮照子作品集』発刊
木暮照子
（社）日展会友
（社）日本新工芸家連盟会員

行田市日本中国友好協会
行田市俳句連盟
木嶋清（俳号斗川）
〒361-0001　埼玉県行田市北河原六三〇
電話・FAX（〇四八）五五七―〇二七三

財団法人若葉会
若葉保育園
園長　保泉欣嗣
〒361-0073　埼玉県行田市行田十一―一〇
電話（〇四八）五五六―二七九七

水谷剛蔵
〒177-0051　東京都練馬区関町北二―六―三
電話（三九二九）七〇七一
FAX（三九二八）七一〇八

公認会計士
奥貫健一
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷三―一―十五―四〇一

綿貫守男
〒110-0016　東京都台東区台東一丁目三七番一〇号

大野建設株式会社
代表取締役　大野年司
〒361-0023　埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電話〇四八（五五三）〇一〇〇

株式会社ケイマス
黒渕陽夫
〒361-0074　埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二一
TEL〇四八―五六九―二二五一
FAX〇四八―五六九―二二二一

小山商事株式会社
取締役会長　小山博
〒361-0025　埼玉県行田市大字埼玉三三五一
電話（〇四八）五五九―四一二一（代表）
FAX（〇四八）五五九―二五五〇

行田ケーブルテレビ株式会社
代表取締役　社長　小澤誠邦
〒361-0056　埼玉県行田市持田九八〇
TEL〇四八―五五三―二一二二
FAX〇四八―五五三―三三六六
http://www.tvg.ne.jp
e-mail:m-ozawa@tvg.ne.jp

榎本晃三
〒361-0057　行田市城西四―三―八
☎〇四八―五五四―〇〇三八

ガクヤ株式会社
取締役顧問
小池英輔
〒361-0072
行田市宮本五－十八
☎〇四八－五五三－四一四一

財団法人忍郷友会
会長
松平忠昌
〒214-0038
川崎市多摩区生田六－一五－三六
☎〇四四－九五五－九三三六

マルコプリンツ
板倉安男
〒361-0077
行田市忍一－十三－三十二
☎〇四八－五五二－一五〇〇

有限会社
三共社印刷所
代表取締役
大谷純一
埼玉県行田市富士見町二－一－三〇
TEL〇四八－五五六－六二〇一

松雲山　長光寺
曹洞宗　久寶山　興徳寺
雲峯山　東泉寺
住職
福島伸悦
（連絡先）
埼玉県行田市下中条一六一九－二
電話〇四八－五五七－〇九九九
FAX〇四八－五五七－二三四七
E-Mail kotokuji@muc.biglobe.ne.jp

須郷榮司
〒330-0846
さいたま市大宮区大門町三－一三〇－一－四〇一
TEL〇四八－六四九－四五二二

棚沢書店
古本買入
棚沢孝一
〒113-0033
東大正門前
文京区本郷六－一八－一二
☎〇三－三八一一－〇三四一

地元に密着した住まいづくり
株式会社
ファイブイズホーム
代表取締役
細井保雄
〒361-0056
埼玉県行田市持田三丁目二番一七号
電話　〇四八（五五三）二二七二

渡辺株式会社
代表取締役
渡辺栄一
〒361-0073
行田市行田一－四
電話　〇四八－五五六－三一四六
FAX　〇四八－五五六－一二八八
自宅　〇四八－五五六－三一四六

進脩塾素読教室
田代敬二
〒214-0038
行田市行田六－一六
☎〇四八－五五六－三七二八

小川工業株式会社
代表取締役会長
小川雅以
本社　埼玉県行田市桜町一丁目五番十六号
電話行田（〇四八）五五四－四一一番
ファクス（〇四八）五五三－三四四四番
東京支店　東京都港区新橋二丁目十六番一号
電話〇三（三五〇三）一一九二番

財団法人忍郷友会
名誉理事
佐藤孝太郎
〒361-0076
行田市天満三－十六
☎〇四八－五五六－一九〇〇

有限会社クリーンライフ
代表取締役
古沢勇治
〒361-0075
埼玉県行田市向町二五－二〇
TEL（〇四八）五五六－三三一二（代）
FAX（〇四八）五五五－三四〇一
携帯電話〇九〇－三二〇〇－二五八二

山本商事株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
東京海上日動あんしん生命保険株式会社　代理店
代表取締役
山本憲作
e-mail:ken@hoken-yamamoto.co.jp
〒361-0074
埼玉県行田市旭町一〇－四三
TEL（〇四八）五五五－二二一一（代）
FAX（〇四八）五五三－三三〇八
http://hoken-yamamoto.co.jp
e-mail:info@hoken-yamamoto.co.jp

大岡産業株式会社
代表取締役
大澤誠
〒361-0062
埼玉県行田市谷郷一三二〇
TEL〇四八－五五三－〇一二八
FAX〇四八－五五三－二六八一
携帯〇九〇－一六〇二－六六〇
http://www.ookasangyo.com/

株式会社グリーンメイト スクール販売
取締役会長
小池聰太郎
〒361-0075
埼玉県行田市向町一三番三九号
TEL：〇四八－五五三－〇一二八
FAX：〇四八－五五四－七四二五
H.P：〇四八－五五三－二六八一
Email：koike069@greenmate.co.jp
http://www.greenmate.co.jp

有限会社　高戸環衛
埼玉県知事登録番号　第5－5105号
貯　第7973号
代表取締役　戸ヶ崎直司
〒361-0062　埼玉県行田市藤原町三－十一－二六
電話　〇四八－五五四－一九二〇
FAX　〇四八－五五六－二六二七

Emborick
NETWORK SERVICE PROVIDER
SAKITAMA-INTERNET
代表取締役　飯田芳幸
yoxhi@sakitama.or.jp
株式会社エンボリック　http://www.emborick.co.jp
さきたまインターネット　http://www.sakitama.co.jp
〒360-0001　埼玉県行田市北河原七〇五番地
GPSアドレス／N：36°11′25″　E：139°25′40″
TEL／〇四八－五五七－三二六六（代表）
FAX／〇四八－五五七－三四二一

株式会社　リノン
LINON CORPORATION
代表取締役　新井啓介
ARAI KEISUKE(Casey)
President
LINON
〒361-0038　本社　埼玉県行田市前谷二五
Hoffice：25 Maeya Gyoda-shi Saitama-ken Japan
TEL：〇四八－五五五－〇五〇九　FAX：五五五－三二七九
携帯（Cell）〇九〇－三三三四－〇四三四
http://www.linon.co.jp　E-mail：arai@linon.co.jp

行田市の現勢

平成十九年十月一日現在

1 市役所所在地
〒三六一－八六〇一
埼玉県行田市本丸二番五号
TEL．〇四八－五五六－一一一一
FAX．〇四八－五五六－一七六六

2 市制施行
昭和二十四年五月三日

3 面　積　六、七三七㎢

4 人　口　八七、七九五人

5 世帯数　三二、〇七七世帯

6 歳　入　二三、一〇〇百万円（当初予算）

7 歳　出　二三、一〇〇百万円（当初予算）

8 市の機構
市長　工藤正司
助役　清水英孝
職員数　五七一名

9 教育委員会
委員長　保泉欣嗣
教育長　津田馨

10 議　会
議員定数　二十四名
（無所属十八　公明三　日本共産党三）
議長　岩田譲啓
副議長　新井孝義

11 学　校
大学　一校
専門学校　一校
高等学校　一校
中学校　八校
小学校　十六校

12 都市宣言
環境衛生都市宣言
人権尊重都市宣言
平和都市宣言
青色申告の都市宣言
交通安全都市宣言
暴走族追放都市宣言
非核平和都市宣言

13 まちづくりの目標
水と緑　個性あふれる文化都市

14 産業経済
製造品出荷額　二、八一〇億円（平成十七年）
商品販売額　一、四五二億円
農業粗生産額　五十億円（平成十七年）
商店数　九二九店舗
工業事業所数　二四六事業所（四人以上・平成十七年）

15 公共施設
さきたま史跡の博物館
教育文化センター
郷土博物館　忍城御三階櫓
産業文化会館・はにわの館
総合体育館・総合公園プール
市民プール・総合公園野球場
資料館・公民館（十六館）
図書館・古代蓮会館
総合福祉会館・商工センター

16 友好都市提携
三重県桑名市・福島県白石市

17 観光地
風土記の丘さきたま古墳公園
忍城址公園（忍城御三階櫓）
古代蓮の里公園
行田市郷土博物館・利根大堰
水城公園・東照宮

編集後記

十二月二日、星川の清掃とキタミソウ観察会に参加し今、編集後記のペンを取っています。行田市の南河原と池守・和田の間、斎条、白川戸を流れる星川は、熊谷の星渓園より流れる星川（行田市に入ると忍川）と区別し、上星川とも呼ばれています。元々は荒川の旧流路で、ついこの間までは砂地の清流だったそうです。ここに星のような小さな、小さな白い可憐な花を咲かせるキタミソウが自生しています。

キタミソウはシベリアなどの寒冷地の湿地に自生する雪田植物で、氷河時代の生き残りと言われています。名前の由来となった北海道の北見地方では絶滅したそうです。夏場水面下二メートル程の川底で種子が生き残れる環境のある埼玉県東部など一部の地域のみに生息し、環境省の絶滅危惧1A類（最も絶滅の危機に瀕している種）に指定されています。星川は、全国的に見ても最も大きなキタミソウの群生地です。

昨春より活動を始めた「星川の自然とキタミソウを守る会」には忍郷友会の会員も数名参加し、積極的な役割を果たしています。郷土の貴重な自然を次世代につなげていくことも忍郷友会のめざす青少年育成教育にも通ずるものがあると思います。

熱く燃えた百周年事業以降、編集委員となりましたので、今後も黒渕陽夫編集委員長に協力し、会員の皆様に親しまれる会報つくりにつとめたいと思います。

編集委員　橋本恭一

発行者　財団法人　忍郷友会　会長　松平忠昌
事務所　埼玉県行田市行田五－一〇
（十万石スリーハートビル3F）
TEL．〇四八－五五六－九〇〇〇
FAX．〇四八－五五六－九〇〇七
URL／www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail／gyouda@oshi-goyukai.or.jp
印刷所　有限会社　三共社印刷所
〒三六一－〇〇二一
埼玉県行田市富士見町二－一－三〇
TEL．〇四八－五五六－六二〇一
FAX．〇四八－五五六－六二〇四